

# 放送教材の効果的利用法

足利市立葉鹿小学校教諭 小 高 唯 夫

## 1 放送教材観について

よく放送は一方的なもので、受け身的なものだといわれる。かと思うと、単にテレビを見ただけでも、素晴らしい効果があるという意見を述べる人もいる。

両者とも極論で正当性を欠いていると思う。というのは、指導の面を無視しているからである。同じ画面を見ても、それまでの地ならしがどれだけできているか、あるいはそのテレビを受けてどう展開するかによって、子どもの受けとめる内容というのは、ずいぶんと違ってくるものである。

## 2 放送教材利用の指導計画

### 1 シリーズ利用（継続利用）をとる理由

放送教材利用に、「シリーズ利用」と、必要なときだけ利用する、「選択利用」の二つの方法がある。

わたくしは、前者の立場にたって利用している。もともと放送番組は、番組制作者が、一年間を単位として教科の学習内容を検討して、シリーズとして系統性をもった個々の番組の配列・構成をしているからである。

また、子どもの番組の受けとめ方（視聴反応）を考えたとき、継続利用して、視聴回数をかさねる中で、徐々にねらいにむかって児童の視聴力を高め伸ばそうと考えたからである。

### 2 指導計画の留意点

シリーズ利用となれば、授業における各単元の進捗と放送番組の単元進捗とのいわゆる「ズレ」は当然生じることを前提として考えている。また、日課表も放送視聴が授業時間の中ほどにくるよう位置づけている。

ところで、指導計画のおもなものは、次の四点である。

- ・ 子どもの視聴力・視聴反応に即して、視聴力を高める指導法を工夫する。
- ・ 個人差のある視聴力を、視聴力に応じて個別指導をしたい。
- ・ あくまで、子どもが自分の力で、「テレビを見ながら、テレビから学びとる」態度と能力を自分でつけるように努力させたい。（主体的学習態度の育成）
- ・ 単元進捗・順序は、できるだけ、ズレないようにしたい。

この、前より三項目のために、また、番組視聴直前の指導の時間をできるだけ少なくするために、「放送カード」を子どもに書かせている。

## 3 指導の実際—「放送カード」を中心に

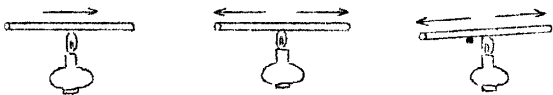

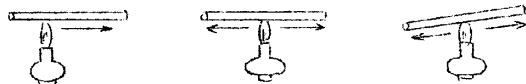

### 1 放送カードの内容

- ・ 視聴した日時

- ・ 題目
- ・ 前もって自分で調べたこと
- ・ 放送されたこと
- ・ はじめてわかったこと
- ・ わたしたちの身のまわりでみられること

このような六項目を内容としている。つぎに実際の例をしめしてみる。

①名 前	5年2組 36番 (近藤 芳子)
②放送日	社会 1月22日 月曜 4時間
③題 目	青 果 市 場
④べ前 たも こっ とて 調	<p>青ものがどういふふうにつたわるか。</p> <p>{ ・ (農家) → (農業協同組合) → (市場) → (小売店) → (しょう費者)</p> <p>{ ・ 小売店と協同組合のなかだちをする。</p>
⑤放 送 さ れ た こ と	<p>農家 → 農業協同組合 → 市場 → 小売店</p> <p>消費者 ←</p> <p>→できたせい品をあらって袋につめて運ぶ。 *その野菜をねだんの高い日にトラックで運ぶ。 →ねだんをきめてもらってる。</p>
⑥こわは とかじ つめ たて	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 市場でねだんをきめる。</li> <li>② 買う人にねだんをきめてもらうこと。</li> <li>③ 農業組合では、ねだんの高い日に野菜をトラックで運ぶ。</li> </ol>
⑦みみわ らのた れまし るわた こりち とでの	<ol style="list-style-type: none"> <li>① やおやさんに、トラックで野菜がはこばれてきたことがある。</li> <li>② わたしたちの町にも農業協同組合がある。</li> <li>③ 佐野の木材市場へ行ったらおろし売りで、せり売りをしているのを見た。</li> </ol>

①名 前	5年2組 16番 (長竹 一彦)
②放送日	理科 1月10日 水曜 4時間
③題 目	もののあたたまり方(1)
④ 前もって調べたこと	<p>① 鉄の棒をアルコールランプで熱すると</p>  <p>上の図のようなあたたまり方をする。</p> <p>② 銅の板にろうをぬり三脚にのせ、下からアルコールランプでねつするとろうは、</p>  <p>まん中をねつすると中心よりはじからねつすると、はじからひろがる。</p>
⑤ 放送されたこと	<p>① テレビの考え方 問題点がでる→実験する→解決する。</p> <p>② 熱の伝わり方はななめにしてもかわらない。</p>  <p>③ 熱はおん度の低い方へ伝わる。</p> <p>④ かわった形の熱の伝わり方</p> 
⑥こわはとかしつめたて	① 別にない。
⑦みみわらのたしれたるわちりこりとで	<p>① 火ばしで火をつかんでもあつく感じない。</p> <p>② 「お好み焼き」のとき、やけ方が場所によって時間にちがいがあがる。</p>

国語・音楽では、項目をややかえた放送カードを使用している。例をしめそう。

①名 前	5年2組 28番 (岩田 真理子)
②放送日	音楽 1月23日 火曜 5時間
③題 目	ふるさと (美しい合唱)
④べ前 たも こっ とて 調	三部合唱の意味 同じ歌でも音かいをちがえて合唱することー3音かいに分れて
⑤ 放 送 さ れ た こ と	① 合唱団の人が「ふるさと」を三部合唱でうたった。 ② 歌った曲目 ふるさと・山びと・ぶらんこ・おばあちゃんこんにちわ
⑥し練 た習 りし した たり こ応 と用	① 学校 「星の世界」を三部合唱した。 f・pなどに気をつけて ② 家 兄とわたくしで「星の世界」を二部合唱した。
⑦ 感 じ た こ と ・ 思 っ た こ と	① テレビで中国の人の男の子や、日本の男の子が合唱したが、わたしたちの男の子とは、ぜんぜんちがっていた。 ② 兄の声音が良いのにびっくりした。

①名 前	5年2組 33番 (金子もも子)
②放送日	国語 1月16日 火曜 1時間
③題 目	気持ちをこめて
④ 前も こ と て 調	物語の読み方(ろうどく) ・ 読む人の心にはたらきかける。(楽しい気持ち, 悲しい気持ち) ・ 出てくる人物の気持ちと考える } ・ 相手に話しかけるような気持ち } で読む。
⑤こ と 放 送 さ れ た	① 物語をろうどくした。 ・ 会話の分と地の文を区別して ・ 場面や出てくる人の気持ちを考えて ② じょうずな朗読をきいた。
⑥り 練 習 し た こ と り 応 用 し た	○ 家で「あめ玉」と「ポットの話」を読む。 ・ 注意したこと 地の文… ○ ようすがわかるように 会話の文 { ○ 話しかけるような気持ち } 読む。 ○ その人の身になって ・ 例 ぼかぼか どっか すらし ばっちり こっくりこっくり 会話 子どもや母の話し方
⑦た と 感 じ た こ と 思 っ た	会話のとき、話しかけるようにするのもいいが大げさになってしばいのように なると、あまりよくない。—ラジオの話より—

## 2 放送カードによる指導

カードによる指導は、つぎの方法でおこなっている。

- ・ カードの配布は視聴の前日にする。(前もって調べる項目記述のため)
- ・ 視聴の翌日、カードを提出させる。(放送されたこと・練習したこと・感じたこと・身のまわりでみられることなどの記述のため)
- ・ 記述内容を点検する。
- ・ 教師の気づきを記入する。
- ・ 記録内容のよいものは全体に紹介して奨励する。
- ・ 記録の全体的な傾向を知り、必要に応じて注意を与える。

以上のことを通して指導している。この放送カードの記述を中心にして、教師は個人差のある

児童の視聴力を個人別に指導し見方を高める方向に向かわせ、児童は教師の数行のほめられた点自分の欠けた点を反省して、次の番組の見方をよりよいものにしたいと努力するわけである。

記述された放送カードは一括して背面黒板の下につるしてある。休憩時などに読まれているのが現状である。

### 3 放送カード記述の段階

児童自身が自分のことばで自分の思考をまとめる放送カードなので、個人差がはっきりあらわれる。一般的に次のことがいえそうである。

- ・ 成績下の者

放送カードの項目別の記入のしさえわからない者もいる。また単なる事項のまとまりのない列で、断片的に耳新しい事項のみ記述している。しかし視聴態度はかなりよい。

- ・ 成績中の者

この段階はかなりの個人差がみられる。ら列型より一歩でた者から、番組内容をいちおう秩序よくまとめ、画面にでてきた事項を自分なりに構成していく型までである。放送カードの六項目「はじめてわかったこと」や七項目の「わたしたちのみのまわりでみられること」の記述量がふえてくるのが、この段階の特色といえよう。

- ・ 成績上の者

視聴後の学習活動が、活発になるのがこの段階といえそうである。すなわち会得した知識や技能を応用し、さらに発展していく型である。知識を拡大深化し、さらに進んでそれらの知識を応用するものである。

さきに記した放送カードのうち、「音楽」「国語」は、その例といえよう。

### 4 継続利用で気づいたことは

児童の視聴力の進歩過程と教師の指導過程について記してみると、

- ・ 児童の学習し得たもの（カードの記述について）

量 少→多→小

質 低→高→より高く

- ・ 指導内容（教師の指導）

量 多→少→より少

低 低→高→より高

- ・ 児童の興味

単なるめずらしさ・おもしろさ→内容がわかるおもしろさ→ものの見方・考え方に対する関心

このようなことが、いえそうである。しかし、なかなか上位にいたる児童がすくなくて単なるおもしろさに、低迷している者が数多くして、頭を痛めているのが現状である。

### 4 テレビの編集のタイプをとり入れて

テレビの編集には、あるまとまったタイプがある。たとえば、5年の「日本の農業や工業」番組

などは

- ・現状描写 ・過去 ・発達の原因
- ・特色 ・問題点と将来

というような順序が多くみられる。これは社会構造を追求する一つのタイプではなからうか。このタイプを児童に理解させ、問題を追求させるのである。

つぎの例は、「耕地整理」の学習のさいの児童のノートである。

#### 耕地整理について

- ① 葉鹿の田んぼはどうなっているか。

学校の裏山から見たら、きちんと整理されているところもあるが、整理されていないところが多い。

- ② 友だちの話

農家の人の家の田は、あっち、こっちというように場所がばらばらである。しかし柏瀬さんの家の田は、きちんと整理ができていそう。

- ③ 教科書より

教科書82ページの円グラフを見ると、日本の18%が耕地整理されており、82%が整理されていない。

(中 略)

- ④ 耕地整理をして良いところはどこか。

- ・ 行きかえりの時間が短くなる。
- ・ 田んぼを整理すると機械化ができる。

- ⑤ 問題になるところ

- ・ 面積が同じでも、良い土地と悪い土地とがあり、簡単に交換ができない。
- ・ 土地を整理するには、お金がかかる。

①から③までは現状描写、④は問題点というように、テレビの編集のタイプを利用して考えている。このように、問題解決のし方、まとめ方でもテレビのタイプが有効に活用応用されている。

このことは、社会科だけでなく理科の学習についてもいえる。もの見方・考え方・扱い方を育てるのに、テレビ編集のタイプを利用するのである。

つぎに、その例をしめしてみる。

題目 太陽・月・地球

テレビの考え方の順序

- ① いままでの月の観察記録をみる。
- ② 記録のなかの問題点を見つける。
- ③ どうしたら解決できるか、いままで学習してきたことをもとにして考える。

- ④ 実験の手順を考える。
  - ⑤ 実験をする。
  - ⑥ 実験の結果から問題点を解決する。
  - ⑦ ⑥のうち、まだわかっていないところを見つける。
- (以下略)

これはある児童のノートである。このように、ある事象を学習する場合、問題の焦点をじぼって予想を立て、実験手続きをよく考えて結論を出し、その結論を吟味して最初の問題をもう一度ふりかえてみるというタイプを利用させるのである。

(注) この項目の文は、東洋館出版社発行「考えさせ方のじょうずな教師」(記憶をもとにして考えさせる教師)に発表したもののうちの一部を転記したものである。

## 5 児童の作文より

つぎの作文は、「足利の子」(小学校編4号)に掲載されたものである。児童が視聴についてどんな考えをもっているか、くみとってもらいたい。

### テレビを見て(瀬戸内の…)

葉鹿小5年 金子 もも子

#### (1) 考え方(テレビの順じょ)

1. 工場の見学(工場のつながり、おもしろいところ)
2. 問題(なぜ瀬戸内だけに工場があるのか。)
3. 理由(原料や製品の輸送に便利)
4. 問題(ありゅう酸ガスが人に害をあたえる。)
5. これからの徳山のよそ(発てんするだろう。その反面にありゅう酸ガスの問題がある。)

#### (2) わかったこと

1. 1つの関係の深い工場がいくつも集まっている。それをコンビナートという。(徳山の場合、パイプで1万メートルもつながっている。)
2. 日本には石油が100パーセントのうち、たった1パーセントしかとれなくて、ほとんど外国から輸入している。
3. 石油は数えきれないほどいろいろにつかわれている。(せんい・薬品など)
4. 石油化学はこれからも発展する。
5. ありゅう酸ガスが人に害をあたえることが、大きな問題になっている。

#### (3) 感じたこと

1. 石油化学がいろいろなくふうによって発展していくのはいいことだけれども、ありゅう酸ガスが人に害をあたえるのは残念だと思う。
2. 石油がいろいろに使われているのにはおどろいた。(せんい・薬品・ねん料など)



——あとがき

わたしたちは、理科や社会のテレビがおわたあと、いつもこのような記録をとります。ふつう内容は次のようなものです。

- (1) 考え方
- (2) わかったこと
- (3) 感じたことなど

これまでの学習では、ただテレビを見ただけでした。けれどもこのように記録をとると自分の考え方がよくまとまります。それにあとで社会科、理科の学習に利用することができるので、とても便利です。

ラジオでの国語教室も、およそ、このような形で記録をとっています。

みなさんの学校でも、やってみてはどうですか。(この放送は昭和43年11月3日3チャンネルのものです。)

以上が作文の全文である。この中で、「自分の考えがよくまとまります。」のことに注目してほしい。前述した指導計画中の「あくまで子どもが自分の力で…態度と能力をつけさせるようにする。」が達成されつつあるように思われる。

ほんとうに、テレビは一方的で受け身的なものであろうか…

## 6 国語科と放送利用

各教科と放送利用を記述しなければならないが、その一例として「国語科と放送利用」を記してみる。

国語科はいうまでもなく、「聞く・話す・書く・読む」の4つの領域がある。ところで「聞く・話す」の力をつけるためには「聞く・話す」という学習を通さなければならない。教科書教材では文字を通しての表現であるため、教師が指導法をくふうしてもなかなか効果があがらない。

その点、「ラジオ国語教室は、生きたことばが直接耳にはいるため、「聞く・話す」の指導にはもっとも適している教材である。なんといっても、「聞く・話す」の指導は音声を通したものでなければ効果は望めるものではない。

### 1 利用するときどんな形態が考えられるか

第18回放送教育研究全国大会が今年の11月長崎で開かれたことは、ご承知のことと思う。ところで、その席上で話し合われたものが参考になると思われるので次に記してみる。

A型=直前・直後の指導をほとんどせず聴取だけにする。(教科書指導の中に組みこみ教科書に重点をおいて指導する場合。積み重ねによって習慣化されたもの)

B型=直前指導に重点をおいて指導する。(今後教科書で学習する計画のもの。経験がじゅうぶんで放送を問題解決の場とするもの)

C型=直接指導に重点をおいて指導する。(以前に教科書で学習しているもの。練習をする必要のあるもの)

D型＝1時間(45分)をその指導にあてる。(教科書教材と時期的にあっており、放送に重点をおいて指導する場合。児童の実態からその技能を伸ばす必要のあるもの)

このような4つの型が考えられるが、ラジオ国語教室の利用にはこれといった定型的なものはない。各担任が自分の学級の児童の聴取能力や、聞く・話すの実態に応じてくふうするのがよいと思う。

## 2 ラジオ国語教室利用の指導法一例

国語教室が放送される時間、たとえば5年生ならば火曜日の1校時一を時間割の上で「国語」においておくことが先決である。放送は一年中同じ時間一5年ならば9時～9時15分一であるため、夏季時程や冬季時程によって苦しくなることもあるが、聴取態度さえ確立されていれば、教師がいなくても静かに聞けるようになる。

つぎに1月9日に指導した事例を記す。ご参考にできれば幸いである。

まず放送テキストを放送以前に読んで、ねらい・指導上の留意点・内容等を調べておく。放送テキスト(小学校5年・NHK)には、ねらいとして

・ 記録文や説明文などを、重要な点がよくわかるように音読することができる、と書いてある。

さて、このねらいをもとにして事前指導をする。事前指導といっても教師が直接指導するのではなく、課題として与えるのである。この1月9日の場合には、前日の8日に、「記録文や説明文を朗読するとき、どんなところに気をつければよいでしょう。」と、発問し、「放送カード」の「前もって調べたこと」の欄に記入を命じた。

さて、9日の放送時刻には、このカードをもとにして放送を聞かせた。自分の調べたものと放送されるものと、どこどころがちがうか、しんけんそのものであった。そしてそのことは、「放送されたこと」の欄に記入をさせた。

つぎに「応用したり、練習したり」の項目では放送を聞いた直後に、いつものように、

「さあ、きょうは何をやりたい」

と発問し、児童といっしょに場面や条件を設定し(この活動の中で放送の内容はきちんとまとまる)練習にはいった。

このときには、教科書の説明文を読もうということになり、その文を朗読した。このときのよりの記録は翌日の10日までに提出させた。(応用したりの項目に記録)もちろん感じたこと、思ったことの欄までに記入させた。

この方法は少しも無理なく、児童たちに受け入れられ、練習の時間をとるため、(自分たちの実態に即した練習)ますますのり気になってきている。

## 3 児童の反応

児童は放送から受けとめたものを自分の生活に生かそうとする意欲をもちつつある。つぎの作文からも、その芽がうかがえると思う。

「説明文の朗読のしかた」を聞いて

「説明文の読み方」の放送で、参考になったことは、二つあります。

1つは、発音をはっきりし、声の大きさを考えて、ぼろ読みにならないようにすることです。  
もう1つは、だいじなことをはっきり読むということです。

いままでのぼくの読みかたは、このことになっていませんでした。ですから、これからは2つのことをきちんと守って読みたいと思います。

## 7 まとめにかえて

放送では実力はつかない、放送は一方的で受け身であるということを耳にする。はなはだしものになると、放送利用は教師をノンビリさせる。教師の息ぬきであると意見を述べる者さえる。本当にそうであろうか。なにも放送を利用しなくても、一方的で受け身的な授業もみうけられるし、息ぬきをしている教師もいないでもない。要するにどう指導するかということではなからうか。

もっとも、放送教育などのコトバにまどわされて、手段と目標をとりちがえてしまっている者もたしかに存在する。放送の教育的価値を認めるとそれだけですべてを解決しようとする「放送教育の鬼」もこれまた存在している。放送もつきつめれば教具の一種であろう。教具は何よりもまず学習の手段であって学習の目的ではない。

ただ、はなはだしく落差があるのが、放送利用の現状ではなからうか。いわゆる「食わずざらいが多いのではなからうか。 (終)

(注) 参考になると思われる本

- ① 文部省「学校放送の手びき」
- ② 全国視聴覚教育指導主事協議会「放送教育指導の手びき」
- ③ NHK総合放送文化研究所編「放送教育の研究と理論」
- ④ 本ではないが、参考になる放送
- ① 教育テレビ(3チャンネル)月～金午後3:40～4:00「教師の時間」
- ② ラジオ第2放送 日曜日午前9:00～9:15「放送教育相談室」

## 感 想

放送利用の具体例が豊富にあげられ、利用上の問題だとされているところもよく解決されている。

放送カードによる指導は、いますぐにでも役立つ内容である。特にまとめの部分は、必読されたい。膨大な予算をかけて毎日電波を放っているが、この電波は、利用のあるなしにかかわらず、刻々と消えてなくなるものなのである。テレビとかラジオという設備をもちながら、この電波を消失することは、教科書がありながら教科書を一度も使わないのに等しい。

筆者がまとめの部分で述べているように、放送も一つの教具であり、一種の教材である。放送教育などという教育が別にあるわけではない。学校放送を教材として受けとめるとき、はじめて教育効果を期待できるというものである。